

自らの経験を活かし、 よりよい承継のために上場をめざす

フセハツ工業株式会社 代表取締役 吉村 篤 氏

4代目社長となる吉村さんは、創業者や先代の社長が作った社訓・企業理念を復活させ、また自らの人生理念を「どんな状況でも『希望』を抱き いつも『謙虚』に己の無知を知り人に『安らぎ』を与える者になる」とし、採用・Webマーケティング・社内のガバナンスの改革など、あらゆることを徹底的に行うことで、社長歴たった5年、同友会歴たった3年で劇的に業績を改善させてきました。現在は、株式上場も視野に入れ、まい進するフセハツ工業。「今後は海外へもどんどん積極的にいくと決めています」と語る吉村さんにお話を伺いました。



若い社員・女性が活躍する会社に変身

東大阪西部にあるフセハツ工業は外見上はそれほど他の町工場と変わらないように見えますが、工場に入ると若い社員や女性社員が多いのに驚かされます。人材不足に悩んでいる中小企業の多い中、若い社員が集まる工場にどんな秘訣があるのか非常に興味を持ちました。

工場では所狭しと多くの設備が稼働して機械ごとに社員さんがついてきびきびと動きさまざまな形状のバネが生産されています。大手からの受注もあり、数量を多く生産するだけでも大変ですが、人命にかかわる部品は、1個でも不良品が出るとそのロットごとロスになるようなものもあり、単純作業とはいえない高い緊張感を持って作業されているのがうかがえました。

ネットでの集客で業績を劇的に改善

フセハツ工業は、吉村さんの祖父が奄美大島から来阪し昭和初期にバネの製造を始めたそうです。その後事業を拡大し東大阪では有数のバネ製造会社として発展してきました。2代目の叔父の代を経て、3代目の父の代になり国内製造空洞化などの需要減少により事業縮小の方向へと会社は向かっていきます。しかし、吉村さんはその逆の意見を持っていたことで、先代と意見の食い違いがあり、衝突があったそうです。その後先代は経営から身を引き、吉村さんが社長を引き受けることで、会社は大きく変わっていきます。

当初は、朝礼をしても人は集まらず、経理が先代からの人で、売り上げの数字も知られないと極めてひどい状況からのスタートだったといいます。しかし生産性向上、工程管理の変更、機械の導入など、懸命の努力で窮地をくぐり抜け、新規顧客の開拓にはネットを通じた情報発信をコツコツと行い、2年ほどで業績を回復させていきました。

そしてまた50代60代の社員が中心だった人員構成につい

ては、積極的な採用により平均年齢を大幅に若返らせ、そして積極的に女性社員の管理職への登用もすすめました。ウェブサイトの充実のもとよりYouTube、ツイッター、フェイスブックなどを最大限に利用した戦略は今も継続しており、いまでは従業員の運営で、新規顧客獲得に大きく寄与しているとのこと。

経営指針書も毎年作成し、従業員全員に発表されていると聞き、その内容も拝見させていただきましたが、分厚い中身には現状の業績から未来ビジョン、組織、細かいデータまでびっしりと詰められており、これならトップから一般社員、パートさんにいたるまで会社全体から自分の役割まで分かり仕事を安心してすすめられると確信できました。

株式上場は承継のため

知人の紹介で同友会に入会されたとのことですが、さまざまな業種の経営者の中で例会などの活動により視野を広げておられるとのこと。日中経済交流研究会に入会していいなと思ったことは「視野が広がる。訪中団がいいですよ。ちょうど海外へ行っているのを見てみたいと思っていたので、タイミングもよかった。たまたまかもしれませんが、入会したところから中国からの訪問や商談も増えてきています。今年はマンマーにも行けるので、楽しみにしています。もともと創業者の祖父も海外での活動を通して設備や技術を取り込んでいたということでこの会も十分に活用できる」と語っておられました。

自分が引退するまでの大きな目標とされているのが株式の上場ということで、これは自身の承継時の苦労もありスムーズな事業承継のためだとされています。

にこやかな笑顔のイメージの吉村さんですが、その奥にある何事にも逃げることなく真正面からぶつかり切り開いていく底知れぬエネルギーを感じ見学を終えました。

(まとめ 坂本造機株式会社 坂本 進)